

9月全学連大会へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2018年8月23日
No.520

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

大学や政治の不祥事について

【投稿】首都圏・O

昨今、大学や政治の不祥事が連発している。1件1件それぞれ異常な状態なのにも関わらず、あまりにも不祥事が多すぎるがために、一周まわって日常風景かのようにも見えてくる。絶対に許せない。そこで、今回は昨今特に話題になった不祥事について改めて見返して、総括してみたいと思う。

■東京医科大 不正入試問題

裏口入学・女性差別・浪人生迫害 で役満といったところである。

まずもって裏口入学である。これは単なる不正どころではなく、格差の固定化にも繋がる犯罪的不正行為である。絶対に許せない。インターネットなどでは「私立大学だから裏口入学枠があってもセーフ」などというエクストリーム擁護がちらほら見られるが、100歩譲って裏口入学を認めるにしても、受験生たちにその枠の存在を告知すべきなのだ。擁護者はまったくもってどうかしていると言いかうが無い。

そして女性差別である。なんと、入試の得点を操作しているというのだ。なぜか。「女性は医師にしても結婚したら辞めちゃうから。必要悪みたいなもんだよ」だそう。医学生を自分たちの病院で働く労働者にするにあたって、不都合が生じるという意味である。学生は商品

ではない。まったくもって許しがたい犯罪的行為である。更に、東京医科大学は女性研究者支援の補助金8000万円余りを受け取っている。一方では女性を入学させないように操作をしていながら、もう一方で「女性研究者支援金」はきっちりと受け取っているのは非常に悪質だと言わざるを得ない。学生を道具・商品としか見ていない証拠である。絶対に許せない。この女性差別問題は、大学改革問題と一本の線で繋がっている。新自由主義大学の傲慢さがよく現れている。

また、3浪以上の男性に対しても得点を操作して迫害していたとされる。あまりにも不公平ではないか。100歩譲って浪人生への制限を認めるにしても、受験生たちにその旨を告知すべきではないのか。そしてこの問題は、多浪の学生は成績がなかなか伸びないということが理由だそう。ここでもまた、学生の商品化が見られる。

さきほど「この女性差別問題は、大学改革問題と一本の線で繋がっている」と書いたが、この不正入試問題事件そのものが大学改革問題を根にしたものであることはもはや明らかである。絶対に許せない。

一部の私大医学部では「女子と浪人に厳しいのは常識」とされているそう。つまり、この問題は東京医科大学だけの問題ではないということだ。同じような問題を徹底的に洗い出し、粉碎することが必要である。そして大学改革をふっとばそう。学生を商品として扱うのをやめ

全学連第79回定期全国大会

改憲・戦争をとめる大学ストライキをやろう!

9月1日(土)~2日(日)

(1日) 月島区民館 (2日) 笹塚区民会館

※1日は午前10時開始 参加費用=1000円(会場代、資料代)



させよう。新自由主義大学を破壊しよう！

■日本大学アメフト部 悪質タックル事件

監督やコーチの指示によって、悪質なタックルを実行し、相手校の選手に怪我を負わせたという事件である。権力を笠に着て、危険なことでも平気でやらせる。まさに軍隊である。スポーツマンシップなどという言葉からは正反対の異常な事件であり、そもそも、大学の部活動・サークル活動でこのようなことが起きること自体異常である。また、日大自体が内田=アメフト部監督と田中=理事長による独裁経営であり、暴力団員との交際まで明らかになるなど、ぞくぞくとスキャンダルが暴かれている状況である。にも関わらず、田中は未だに理事長を務めているし、内田も日大の常務理事は辞任したものの、日大関連の職員としては、これまた未だに複数のポストにしがみついている状況である。これを異常と言わずしてなんと言おうか。

責任を取ろうとしないトップ層の構図がある。悪質タックル問題は日本社会の縮図とも言えるべき問題である。美味い汁を吸うだけ吸って責任を取ろうとしない老人を許さず、内田・田中を徹底的に糾弾し、利権が渦巻くトップ層から引きずり下ろし、責任を取らせる戦いをしよう！

■不祥事がただのニュースで 終わってしまう時代

これらのような不祥事はなにも大学だけの話ではない。例えば、「LGBTカップルは子供を産まないので生産性がないので税金を使って支援する意味はない」などとした杉田水脈衆議院議員は批判・非難の嵐にもかかわらず、逃げ切りの姿勢を見せている。本来ならば即刻辞任のうえで比例に担ぎ上げた安倍、ひいては自民党も責任を取るべきなのに、ポーズだけの注意で済ませようとしている。絶対に許せない。

他にも、野田聖子総務相がいわゆる「GACKTコイン」のSPINDLEに関して金融庁担当者に圧力をかけたと言われる問題もある。なんでも、氏の夫がSPINDLEに関わっているというのだが、なんと彼は元暴力団員というではないか。こうなると、暴力団や半グレ集団まで関わっている可能性もありえる一大スキャンダルになってしかるべきだが、どうしたことかこちらも逃げ切りの姿勢を見せている。

まだまだある。西日本の記録的豪雨のさなか、自民党の幹部たちは赤坂自民亭などと称して飲み会をやっていたというではないか。しかも批判が出てきたことに際して自民党が何をやったかという、写真をツイッターに投稿した西村官房副長官にたいしての注意処分だったのだ。出席自体には問題がなく、写真を投稿するのは問題、といった姿勢だが、まったくもって理解できない。出席も投稿も問題ないとか、出席も投稿も問題だったとかなら筋は通っているし理解できる。だが、投稿のみ問題というのは、つまり国民に対して飲み会やってることをバラしたのが駄目、ということである。国民を舐めているとしか思えない。絶対に許せない。

もはや不祥事は起きて当たり前、あとは逃げ切れるかどうか、という風潮にすらなっている。絶対に逃げ切らせず、徹底的に糾弾して責任を取らせるために戦うことが必要である。でなければ、労働者人民は永遠に搾取されつづけるだろう。そんなことはさせてはならない。社会の主人公である労働者・学生の力を団結して戦おう。

8・6ヒロシマ闘争の感想

8月6日、安倍は広島で、まさに被曝者の目の前で核兵器禁止条約を締結しないと述べた。核の威力を利用し続けると言っているのだ。我々の集会を妨害しに未明から来ていた右翼もまさに、「自衛のための核」を叫び、許されざることに被曝者に暴言まで吐く始末だ。このような「自衛」というものが何を表すか、その答えは既に経験されている。まさに被曝者の苦しみは、帝国主義がその行き詰まりを「自衛」の名の下に海外侵略で突破しようと狙ってきた結果である。そして今、「自民党結党以来の悲願」である改憲が、働き方改革・農業制度改悪・教育改革・天皇代替わり・五輪と一体に目論まれている。

それは、戦後革命の労働者人民の闘いが日帝に強制してきた戦後民主主義的秩序に対し日帝が決定的に勝利し、再び「自衛戦争」で危機を乗り切るために、いかなる犯罪でも厭わないということだ。だが、労働者人民に流血と苦痛を強制する、そんな国家体制の延命など許されない。8・6ヒロシマ行動を通じて、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませぬから」との言葉は、戦争・核武装狙う帝国主義、特に自国帝国主義との現場での闘いと共にあるのだと実感した。今、大学に対して、日本帝国主義は延命の道具になれと叫んでいる。一学生として、東大の学生運動、学生自治の再建を通じて自国の帝国主義と闘っていきたい。〔東京大学・Y〕